

様式第2号(第10条関係)

会 議 結 果 の お 知 ら せ

- 1 開催した会議の名称 令和4年度第3回佐伯市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和5年1月10日(火) 19:00～20:45
- 3 開催場所 佐伯市役所本庁舎6階 大会議室
- 4 出席者
委 員：柴田真佑、岩佐礼子、吉見正二郎、竹中裕子、今山博司、芦荻誠仁、藤原容子、
大石ゆかり、宮崎正豊、柳信夫、平野憲司、桑門超、川野幹雄、染矢剛志、
山矢隆彦、植木優子、高野隆正、佐藤誠、芦刈紀生、多田茂、渡邊正太郎、
川上眞弘
欠席者：佐々木大、清家義顕、島村康一郎
市職員等：武田副市長、山崎副市長、宗岡教育長、総合計画本部会議委員
政策企画課 田村総括主幹、清田
- 5 公開、非公開の別 公開
- 6 傍聴人数 2人
- 7 議題及び結果
 - (1) 議題
ア 第2次佐伯市総合計画後期基本計画(案)に対する意見について
イ その他
 - (2) 結果
事前提出があった意見に対する回答について、事務局が説明し質疑応答を行った。
計画案については、「総括的に妥当」とし、答申することに決定した。
- 8 会議の資料名一覧
 - (1) 次第等
 - (2) 総合計画審議会委員からの意見等について
- 9 問い合わせ先
担当課 総合政策部 政策企画課 政策企画係
電話番号22-4104 内線563

令和4年度 第3回 佐伯市総合計画審議会結果について

日 時 令和5年1月10日(火) 19:00~20:45

場 所 佐伯市役所本庁舎6階 大会議室

委 員 柴田真佑、岩佐礼子、吉見正二郎、竹中裕子、今山博司、芦荻誠仁、藤原容子、大石ゆかり、宮崎正豊、柳信夫、平野憲司、桑門超、川野幹雄、染矢剛志、山矢隆彦、植木優子、高野隆正、佐藤誠、芦刈紀生、多田茂、渡邊正太郎、川上眞弘

欠席者 佐々木大、清家義顕、島村康一郎

職員等 武田副市長、山崎副市長、宗岡教育長、総合計画本部会議委員(各部局長)

事務局 政策企画課 田村総括主幹、清田

傍聴者 2名

開 会

1 会長挨拶 柴田会長が挨拶を述べた。

2 議事

(1) 第2次佐伯市総合計画後期基本計画(案)に対する意見について

区分ごとに事前提出があった意見等について、配布した【資料1】「総合計画審議会委員からの意見等について」を事務局から説明し、質疑応答を行った。

【資料1】以外の主な意見は次のとおり。

ア 基本構想

【意見なし】

イ 基本計画

基本計画の体系及び計画推進の基本指針

【意見なし】

政策1 豊かな自然環境と安全・安心な生活環境の創生

平野委員 【資料1】項目1について、災害時の停電で苦勞した事例もあるので、例えば太陽光発電、小規模発電で独立性を保てるような施策を入れてはどうか。例えば、太陽光発電を離島等で設置する際に、税制上の優遇といった制度を新たに構築する必要があると思う。

各地の空き家についても税制上、建物があると固定資産税が安いが更地に

事務局

すると高くなるという問題もある。いろんな手法で施策に取り組むといった文章があるとよいのではないか。

現状は、調査研究という項目出しをする状況である。

現時点で総合計画に盛り込むことはできないが、総合計画を踏まえ、個別計画で具体的に取り組むことになる。各分野の計画を立てる際には、再生可能エネルギーの地産地消に向けた調査研究を踏まえ、取組を進めたい。

政策 2 暮らしと産業を支える生活基盤の創生

川野委員

【資料 1】項目 8 について、コミュニティバスの目標指標だが、利用率としているのに対して、4.5 人という人数になっているのが気になる。

また、モビリティマネジメントのアンケート等によるのであれば、かつ潜在的な需要の掘り起こしをするのであれば、なぜ使わないのか。満足度調査のほうがより使いやすくなってきていいのではないか。人口減少の中で人数を増やすことは、かなり難しいと思う。

【資料 1】項目 9 について、観光協会等を DMO や DMC に、成長させていく戦略があるが、DMO とは「Destination Management／Marketing Organization」で、観光に関するマーケティングやマネジメントを行う組織の狙いがある。こういうイベントも、こういう戦略でこういう効果を狙って実施する。佐伯市内で同時多発的にイベントをする必要もあれば、むしろ重ならないよう毎週開催し、集客するような戦略的なマネジメントを用いた観光誘客を狙った、運用体制のために DMO にお願いする方法もあると思う。

地域振興
部長

利用率という表現で人数としていることについて、過去 1 年間、令和 3 年 10 月から令和 4 年 9 月まで 1 年間で、16 万 7000 人ほど利用し、その便数が 4 万 1000 台ほどだった。1 便当たりが 4 人ということで、国等に報告する数値を踏襲している。

満足度調査については、アンケート調査や利用料、利用者の状況を調べ、令和 3 年 10 月に大きな再編作業を行った。調査結果では、自家用車、家族の車を使うという方が大半で、いかにコミュニティバス利用の満足度を上げ、活用してもらうのが大きな課題になっている。

指摘の観光客にどうやってコミュニティバスに乗ってもらうかも含め、今年度から来年度にかけて策定する本市の計画の中で、県や国と相談しながら取り組みたい。

また、DMO については、具体的に DMO にどういったことを担わせるのかということも決まっていない。意見を参考にしながら検討を進めたい。

植木委員

50 ページの「これからの基本方針」ウは、鉄道・航路となっているが、主な取組では、ウは鉄道、エは航路に分かれている。構成上よいか。

事務局

指摘を踏まえ、主な取組エをウに統合する形で修正したい。

平野委員	各地も含め佐伯市にも観光協会はあるが、色々な分野を統合したコンベンションやフィルムコミッションなどがある。対外的に佐伯市で取材したい場合に専門的な窓口がない。例えばロケが入っても対応出来ない状況ではないかと思ったので、専門家もたくさんいるのでフィルムコミッションや佐伯コンベンションセンターなど、うまく統合するような手法がとれないか提案したい。
総合政策部長	どこが所管するか、対外的な観光事業の戦略的な部分も含めて、一つの組織で取り組むイメージで、佐伯市もそろそろ組織を作ってはどうか。
平野委員	本市もこれまで釣りバカ日誌の際は、一時的に部署を設置して対応してきた。1年間を通して市政の中で取り組む業務であれば、そういう組織を設置すべきと考えるが、佐伯市の組織改編の中で、検討したい。
総合政策部長	他の地域のこうした組織は民間組織である。当然行政の協力は必要だが、民間が運営しているので非常に動きが早い。そういう特性を踏まえると、市に組織を作ると動きとしては違うと思う。検討課題としてこういう組織ができると佐伯市の売り出し方は面白くなってくる。
観光ブランド推進部長	民間を中心とした組織であれば本市も連携しながら進めていきたい。
川野委員	対外的な市の宣伝やロケの受入れについては、観光課に問合せがあり、観光協会と連携しながら対応しているが、十分な対応が取れていない指摘だと思う。DMOの話が出たが、今年度から研究を始めているので、佐伯版のDMOを目指す中で、意見を参考にさせていただく。
	DMOでは、「一般社団法人せとうち観光推進機構」が2015年頃から、取り組んでおり、地域ごとに「瀬戸内 Finder」でライターを地域ごとに雇って、祭りや商品をブログに掲載している。その中で出てきた商品等を瀬戸内の地域商社として売り込んでいる。地域商社を立ち上げても商品などの情報の整理が大変なので、地域ごとに根差したライターに情報をレスポンスよく出してもらい、それをまとめて瀬戸内DMOとしていろんな商品を使ったり、外国に売り込んでいる事例もあるので参考にしてほしい。

政策3 健康で安心して暮らせる共生社会の創生

平野委員	佐伯市には現在、准看護学院しかない。准看の方はその後、その後佐伯市を出て正看を取るために各地の専門学校に通っている状況である。経済的な問題もあると思うが、そろそろ検討する時期ではないか。
福祉保健部長	正看に関しては、医師会とも話をしている。学校を創るには経費や講師が必要になる。准看護学院は、現在、医師会が設置しているが、年間1000万円、2000万円の赤字を抱えながら経営をしている状況である。全体のニーズに応える意味では、准看から正看までの学校があるのが一番だが、それを

	佐伯市の中で完結するのは現状では難しい。
	今後、どのように対応していくか研究しながら医師会とともに考えていきたい。
平野委員	そうであれば、「地域の人材を地域の医療専門者として育てていく」といった一文があるとよいと思うがいかがか。
福祉保健 部長	そこまで具体的な内容までを書き込むことができる状況ではないので、今後研究したい。

政策4 人が学び、人が活き、人が育つ教育の創生

【意見なし】

	政策5 地域資源をいかした産業と観光の創生
竹中委員	農業における自治会や複数集落との連携は、これまでやっておらず大変手間が掛かることで、どう進めるのか。
	また、農業分野で鳥獣被害対策が削除されている。本来、鳥獣対策は林業の課題であり、そちらに重きがあるとは思いますが、今設置している防護柵のメンテナンスが必要との声が多い。農業委員会でも農家の意見として、1番に挙がってくる課題なので取り組んでほしい。
農林水産 部長	農村型地域運営組織について、農業委員会も中心になり協力いただくことになるが、令和5年度から分散した農地を可能な限り集約する作業を行い、農業者が本当に使いやすいよう集約化を図るための地域計画を策定予定である。5年後、10年後を見通し、話し合っていく。その中で、農村型の地域運営組織という必要性も提案をしながら進めたい。
	また、現在、コミュニティーの組織化を図っている。その中で、農業分野も組織が進化していく中で必要に応じて取組ができるのではないかと考えている。
	農業分野の有害鳥獣対策については、林業に一本化したい。提案の件については、被害額は年々減少しているが、近年、市街地近隣の農地の被害情報が多く寄せられている。農業委員会から有害鳥獣の捕獲補助金の継続、イノシシに対する補助金の増額等、色々な要望も出ている。これまでどおり、有害鳥獣捕獲報償金や侵入防止柵への助成は、核となる事業なので引き続き予算化し、取り組みたい。なお、メンテナンスについての支援は難しい部分もある。地域の中で集落ぐるみの活動を行っていただきたい。
藤原委員	「サンゴ礁や離島、釣りなどの観光の生かす」部分について、サンゴ礁だけだと保全なのか見学なのかわからない。表現として「サンゴ礁の見学」のほうがよいのでは。
観光ブラ	提案のとおり修正します。

ンド推進
部長

政策6 人が交流し、活力あふれるまちの創生

総務部長

【資料1】項目23の「交通死亡事故を重症者数」について少し補足したい。基準値が令和3年で13人としているが、この期間はコロナ禍で、全国的に外出を控えていたこともあり、交通事故件数が少なかった。過去5年間では17.8人、過去10年間では28.1人である。こういう状況ではあるが、基準値13人に対して目標値15人と違和感があるという指摘もあるので持ち帰って目標値の人数を再度検討したい。

岩佐副会
長

【資料1】項目22について、先進事例もあり、すでに交流が始まっているのであれば、技能実習生との交流を追加することは問題ないと思うので、検討してほしい。

観光ブラ
ンド推進
部長

昨年度は、ベトナム人技能実習生の方と市民との交流、ベトナムフェスタを実施した。今年の3月には、ベトナムに限らず、市内で生活している外国人の方を対象に市民との国際交流の企画を考えている。

指摘のとおり、技能実習生においては、地域産業や地域社会を担っていただくため、今後も増加していきます。

その中で外国人との共生社会の実現は重要なので、あまべ商工会の先進事例等を参考にしながら取り組みたい。

政策7 地域が輝くまちの創生

【意見なし】

ウ その他の全体的な意見

川上委員
総合政策
部長

【資料1】項目25について、廃校跡地の窓口は、どの部署になるのか。
総合政策部の行政マネジメント課が窓口となる。

川上委員

【資料1】項目27について、地域通貨は、日本全国各地で既の実施しているが、失敗事例も多い。取り組む以上は、情報を収集し、成功する運営をしてほしい。

《総合計画審議会の答申について》

第2次佐伯市総合計画後期基本計画（案）については、「総括的に妥当」とし、**資料1**及び今回出された意見を踏まえ、答申書を作成ものとし、答申書の内容については、会長に一任することに決定した。

なお、総合計画審議会として、今回出された意見において総合計画には反映されなかったものについても個別計画や事業実施に当たり積極的な取組を期待する。

(2) その他

スケジュールについて説明した。

【意見なし】